

リカレント教育って何？

リスキリング・生涯学習との違い、
大学で導入するメリット (Part 1)



デジタル・ナレッジ

CONTENTS

目次

■ 第一章

リカレント教育とは？／リカレント教育とリスキリングの違い／
リカレント教育と生涯学習の違い

■ 第二章

なぜ今リカレント教育が注目されているのか／
日本におけるリカレント教育の現状

■ 第三章

大学がリカレント教育を導入するメリット

■ 第四章

デジタル・ナレッジの「大学向けリカレント教育支援ソリューション」

はじめに

近年、社会的関心が高まる「リカレント教育」。国もさまざまな支援制度の整備を進めており、リカレント教育プログラムを導入する大学も増えています。一方で、大学がリカレント教育を導入するためには多くの課題があります。

このホワイトペーパーでは、リカレント教育の導入を検討されている大学等教育機関向けに、リカレント教育が注目されている社会的背景や日本の現状、リカレント教育導入のために必要なポイント、実際の導入事例についてPart 1・Part 2の2回に分けてご紹介していきます。

第一章

リカレント教育とは？／リカレント教育とリスキリングの違い／
リカレント教育と生涯学習の違い

リカレント教育とは

リカレント教育とは、学校を卒業し社会に出た後も、それぞれが必要なタイミングで必要な内容を学び直すことを指します。大学や職業訓練校などが提供するさまざまな教育プログラムを通じて、新しいスキルや知識を習得し、キャリアアップやキャリアチェンジを目指すことができるため、「社会人の学び直し」とも呼ばれます。

リカレント教育は、個人の成長を支援するだけでなく、組織や産業全体の競争力を高める効果もあります。めまぐるしく変化する社会に適応できる人が増えることで、イノベーションや持続可能な発展が期待されているのです。



■リカレント教育とリスクリングの違い

リカレント教育とリスクリングの大きな違いは、「誰が主導するか」にあります。リカレント教育は個人が自らの意思に基づいて興味のある分野を学ぶのが特徴ですが、リスクリングにおいては、学び直しを主導するのはあくまでも企業です。従業員に対して今後必要と見込まれるスキル習得を促し、習得したスキルを社内で発揮してもらうことが前提となります。そのため、リスクリングは「企業の従業員が成長分野の仕事へ就労移行するための学び直し」とも呼ばれ、人材戦略の一環として実施されます。

■リカレント教育と生涯学習の違い

リカレント教育と生涯学習は「学ぶ」という点では同じですが、その内容や目的が異なります。リカレント教育は、社会人が仕事に生かすためのスキルや知識を学びます。これに対して、生涯学習は個人の成長や発展、趣味や興味の追求、社会貢献などさまざまな目的で行われます。また、リカレント教育では社会人が主な受講者ですが、生涯学習は年齢や社会的地位に関係なく、全ての人々が対象です。リカレント教育よりも広い範囲の学びを対象とした生涯学習は、個人の豊かな人生を支える教育活動全般を指しています。

第二章

なぜ今リカレント教育が注目されているのか/
日本におけるリカレント教育の現状

なぜ今リカレント教育が注目されているのか

リカレント教育が注目されている背景には、急速な技術進歩や働き方の多様化があります。

デジタル技術やAIの普及により、従来の職種が減少し、新たなスキルが求められるようになってきました。また、以前は一度就職したら定年まで同じ職場で働くというスタイルが一般的でしたが、転職や起業、子育てや介護をしながら働く、定年後に新たな仕事に挑戦するなど、働き方も多様化しています。こうした状況の中、仕事で求められる知識やスキルを、時代の変化にあわせて継続的にアップデートすることが求められています。

さらに近年では、学び続けることが個人の成長や自己実現には欠かせないという認識が広がりつつあります。大人になってからも新たな知識やスキルを身につける学び直しは、生き方や働き方の選択肢を増やし、人生の幅を広げることに繋がります。これからの時代は、多様なライフスタイルやライフステージの変化に応じた生き方や働き方がいっそう求められるでしょう。

このように、急速な社会の変化や労働市場の多様化などが重なり合う現代社会において、社会人の学びを支援するリカレント教育はますます重要性を増しています。

■日本におけるリカレント教育の現状

国内では、学校を卒業し社会人となった後の教育は、企業内研修で行う時代が長年続いていましたが、近年、リカレント教育への認識が高まるなか、社会人が個々に学べる環境が整いつつあります。大学の社会人入試の実施、社会人を対象とした大学および大学院への編入、大学公開講座、さらにはカルチャーセンターや通信教育といった民間の力もあり、社会人の学びの機会は確実に増加しています。

しかしながら、リカレント教育の普及のためには、教育制度やカリキュラムの充実、働く人がより学びやすい環境の整備など、さらなる施策や取り組みが求められています。



第三章

大学がリカレント教育を導入するメリット/
大学におけるリカレント教育の課題

大学がリカレント教育を導入するメリット

リカレント教育の導入は、大学側にとってもさまざまなメリットをもたらします。ここでは主なメリットをご紹介します。

①社会貢献の拡大

リカレント教育の導入は、新しい職業や分野に挑戦する人々をサポートするだけでなく、専門人材育成や先端技術習得など、社会に対して大きな価値を提供することにつながります。大学はリカレント教育を通じて、大学が有する知をより幅広い人に提供することで、地域社会や産業界の発展といった社会貢献度を高めることができます。

②収益性の向上

リカレント教育は、少子高齢化時代における市場縮小への対応としての側面もあります。社会人に需要の高いプログラムやカスタマイズされた教育サービスを提供できれば、大学の知名度向上にもつながりますし、新たな収益源にもなります。このように、リカレント教育は大学の経済的な健全性維持・向上にも効果的です。

③産学共同推進

リカレント教育プログラムを提供する上では、社会的ニーズの高い分野やスキルに焦点を当てたカリキュラム開発が重要となります。そのため、企業との共同研究や包括提携など、産業界との連携を強化したり、複数の大学間で共同プログラムを開発するなど、新たなネットワーク構築や産学共同の推進が期待できます。

④学生の意欲向上

すでに社会で働いた経験のある社会人の学びに対する姿勢や社会経験は、現役の大学生にとって良い影響をもたらします。リカレント教育プログラムで学ぶ社会人受講生との交流を通じ、学生の能動的な授業参加や学習意欲向上などポジティブな変化も期待できます。

⑤大学のイメージ向上

社会人が成長し続ける環境を提供するリカレント教育の導入は、大学として「いくつになっても学び続ける人を応援します」というメッセージを発信することにもつながります。教育機関としての社会的責任を果たし、学び続ける文化を醸成するという大学のコミットメントを明確に示すことは、結果として大学のイメージ向上にもつながるでしょう。

第四章

デジタル・ナレッジの「大学向けリカレント教育支援ソリューション」

デジタル・ナレッジの 「大学向けリカレント教育支援ソリューション」



KnowledgeDeliver

学習管理システム（LMS）の決定版。リカレント教育に必須のオンライン環境を構築します。



教育コンテンツ制作

より教育効果を高めたい方へ。質の高いコンテンツ制作もお任せください。



運用サービス

実績豊富な「デジタル・ナレッジ運用サービス」がeラーニングプロジェクトをより円滑に運用します。



オープンバッジ

プログラムの修了証をオープンバッジで発行できます。



EC決済

講座のオンライン申込・決済から、運営作業の効率化までワンストップで実現します。



CBT試験

紙ベースの試験のオンライン化・運営を支援します。

そのほかにも多数のメニューがあります。リカレント教育の導入を検討中の大学等教育機関の方は、お気軽にお問い合わせください。

皆さまからのご連絡をお待ちしております

メールで質問

infoadmin@d-k.jp

電話で質問

導入の
ご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索